資料４

様式３

再評価実施事業調書

番号		事業名	住宅市街地基盤整備事業		路線又は箇所名等			二級河川 南白亀川	
事業所管課			住宅課		事業主体			千葉県	
事業化年度	平成５年		用地着手年度	平成５年	工事着手年度 工事終了（認可）年度	平成５年度 平成22年度		再評価の理由	⑥
費用便益比 B／C	1.7	総費用	9.7億円	総便益	16.7億円	基準年	平成19年度	供用開始年度	平成22年度

事業概要

（事業目的）

南白亀川水系では昭和23年度から河川改修事業に着手し、中・下流部では河道改修がほぼ完成している。しかし、上流部については一部区間を除き未改修であり、上流部沿川の市街化に伴う流出増により、近年、宅地や農地の浸水被害が顕著となっている。特に、平成元年８月洪水においては273戸（うち床上３戸）、平成８年９月洪水では58戸（うち床上８戸）、平成16年10月洪水では34戸の家屋浸水被害を生じており、現在も上流区間について、河床掘削や堤防嵩上げ等の河川改修を継続実施中である。

このような背景から、南白亀川上流部沿川の早急な治水安全度の向上を目的とし、住宅市街地基盤整備事業による整備の促進を図っている。

（主な実施内容）

改修延長　4,160m、築堤工（一部、護岸工）・・・3,470m、橋梁・・・9基、樋門・樋管・・・12基
堰・・・4基、用地買収 49,400m^2

事業の進捗状況

	全体計画（億円）	投資事業費（億円）	進捗率（%）
全　体	59.00	49.75	84.3
工　事	47.61	38.46	86.6
用　地	11.39	11.29	99.1

社会経済情勢等

① 流域状況

本流域は、上流の大網白里町市街地を中心に都市化が進展しており、治水安全度の向上が急務である。氾濫区域には、大網白里町の市街地の他、国道128号、JR東金線等を含み、水害発生時の被害、社会的影響が極めて大きい。

② 主な水害状況（水害統計より）

・平成元年８月１日（台風12号）
床上浸水　3戸　床下浸水　270戸　浸水面積　3.73ha
・平成８年９月22日（台風17号）
床上浸水　8戸　床下浸水　50戸　浸水面積　7.87ha

③ 投資効果

浸水戸数 約33戸, 農地面積 約69ha

④ その他

（関連事業）
・首都圏中央連絡自動車道
（地域の協力体制）
南白亀川流域委員会, 南白亀川改修期成同盟会
（その他）

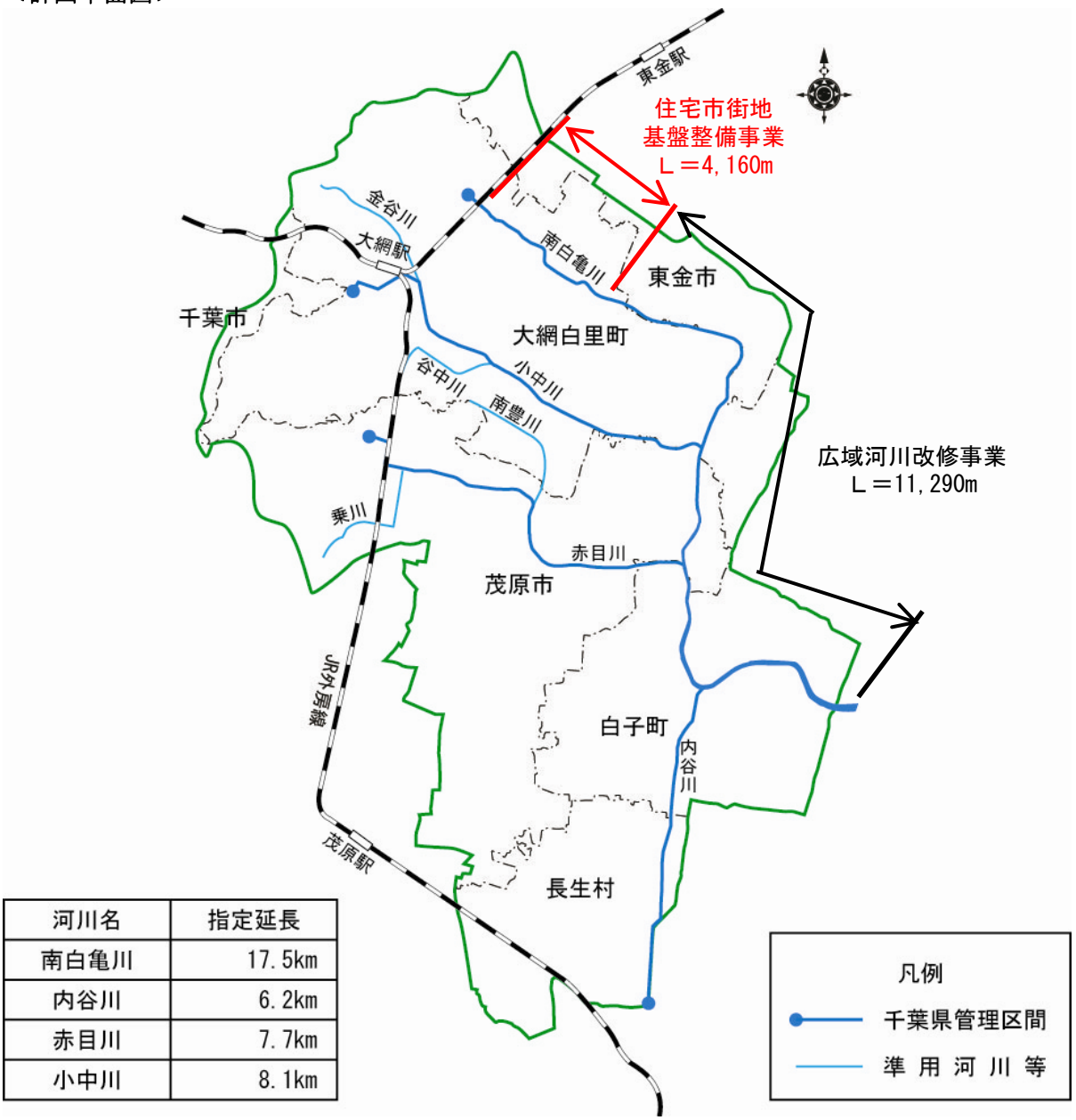
対応方針（案）	継続

様式４

事　業　概　要　図

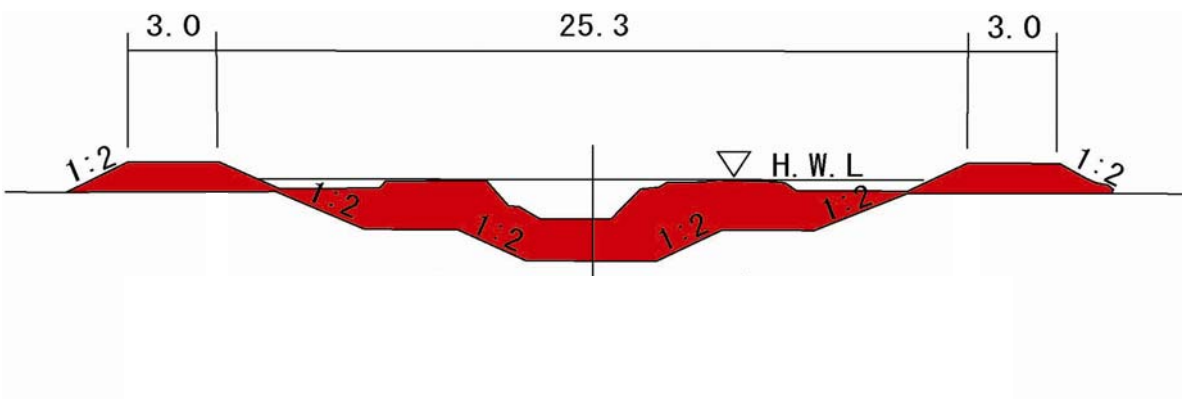
番号		事業名	住宅市街地基盤整備事業	路線又は箇所名等	二級河川　南白亀川

＜計画平面図＞



河川名	指定延長
南白亀川	17.5km
内谷川	6.2km
赤目川	7.7km
小中川	8.1km

＜標準横断図＞



◆南白亀川（上流）事業再評価 検討条件

(1) 検討対象区間

・南白亀川（上流）：柳橋～ＪＲ東金線：L=4.16km

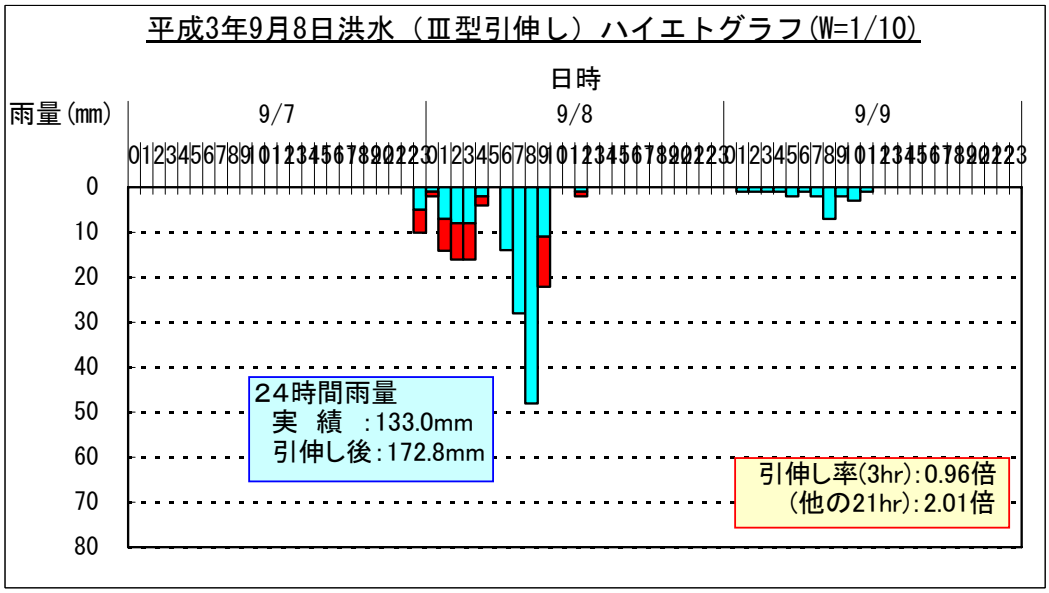
(2) 河道条件

・平成 18 年度末（H19.3 末）時点の「現況河道」（平成 14.1 測量図を元に補正）

(3) 検討対象洪水

・計画規模：10 年に 1 回程度発生する規模の洪水

・既往の「南白亀川水系工事実施基本計画」の計画降雨波形（平成 3 年 9 月 8 日洪水）について、1/10 年確率を最大とし、以下、1/5 年、1/1.7 年（30mm/hr）規模の洪水が発生した場合について、検討を行った。



(4) 氾濫解析手法

・現在公開中の「南白亀川水系浸水想定区域図（1/50 年）」と同じ水理解析モデル（河道内の流れ：一次元不定流解析、氾濫原の流れ：二次元不定流解析）を使用

(5) 流域の資産条件

・資産数量については、最新の 1/2,500 白図（大網：H12 修正、東金：H11 修正）を用いて、氾濫区域内の家屋戸数と農地面積を図上で計測

・統計データについては、『平成 18 年度版　データ大網白里』記載値を使用

(6) 単価等

・『治水経済調査マニュアル（案）　各種資産評価単価及びデフレーター』（平成 19 年 2 月改正　国土交通省河川局河川計画課）を使用